

「Yes and」の発想で

芸工大教授を講師に

長井高1年生「探究型」基礎学ぶ

長井市の長井高（青柳敦子校長）で9日、東北芸術工科大・高大接続推進部長の柚木奉彦教授を講師に招き、1年生175人が2年次から始まる「課題研究」に向け、探究型学習に必要な考え方やアイデアのまとめ方などを教わった。



助言し合いアイデアを広げる進め方を実践的に
取り組む生徒たち
＝長井市・長井高

講座は、正解のない課題に対して納得解を探るための思考法や発想法などを学んだ。この日は「毎日通いたくなる図書館をつくるには」など五つの課題から一つ選択し、3、4人のグループでより良い提案を見いだす演習に取り組んだ。生徒はそれぞれ八つの提案をシートに書き込み、グループ内で助言し合いアイデアを広げていく進め方を実践。まとめで「図書館を」シムやレストランなど多機能にする」「声をだせるスペースを設けるなど子連れでも来やすくする」といったアイデアを発表した。

柚木教授は「提案は自分ができることを意識して。さらに当事者の視点を大切にしながら、Win-Winの関係を目指してほしい」とアドバイスしていた。参加した1年船山天寧さん(16)は「『Yes and』の考え方を学び、否定せずに発想を広げたり、思考を深めたりする手法はとても役立つと感じた。特別支援教育の先生を目指しており、課題研究では教育分野のテーマに取り組みたい」と話していた。

(石井剛)